

### (3) ②様式第3号-2 (報告書)

※文字のフォント、大きさは Meiryo UI / 12ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。

※写真は、進行プログラムに沿って適宜、右ページに簡単な説明文を添えて貼り付けてください。

※必ず A3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

|             |   |
|-------------|---|
| NITS・教職大学院等 | 実施機関名・連携機関名<br>宮崎大学教職大学院・宮崎県教育委員会教職員課・宮崎県教育研修センター   |
| コラボ研修プログラム  | 事業名：<br>アフター・コロナでのコンプライアンス対応  |
| 支援事業報告書     | 研修等名：【NITS・宮崎大学教職大学院コラボ研修】<br>アフター・コロナでのコンプライアンス対応 ～教員による非違行為の防止意識を高める～   |
|             | 開催日時：令和6年2月5日 13時～16時<br>開催場所：宮崎大学教育学部7階講義室（宮崎県宮崎市学園木花台西1-1）<br>参加人数（総数）と参加者の属性：（46人）教育委員会教職員課1人、教育研修センター1人、大学教員8人、院生23人、学部生13人 |

**内容：**2021年度から「アフター・コロナを見据えて」をテーマにした NITS コラボを開催しており、2022年度には、学校でのコンプライアンス意識を学校全体に浸透させることを目的とする概念であるコンプライアンス対応を構築するための基礎情報として世代間ギャップに関する情報を収集して研修会で検討した。2023年度は非違行為の防止意識を強調する内容とした。まず、「講義1」として研修の趣旨、学生のコンプライアンス意識に関するアンケートの結果（『令和5年度NITSコラボ事業アフターコロナでのコンプライアンス対応～教員による非違行為の防止意識を高める～質問紙調査報告書』として刊行済み）と法令説明を行い、「講義2」として宮崎県教育委員会教職員課コンプライアンス推進員である谷口英彦先生から、宮崎県の行政研修でのコンプライアンス研修の説明を行った。次に、テーマ「新旧世代の教員同士で考えるコンプライアンス対応の取組について」をテーマにした「パネルディスカッション」を実施した。パネラーは、宮崎大学教職大学院教員がファシリテーター役となり、谷口英彦先生と宮崎県教育研修センター学習研修課副主幹1名、宮崎大学教職大学院現職教員院生2名、ストレート院生代表2名の計7名であった。そのあと、ディスカッションとして、1グループあたり6～7名の3グループで、テーマ「勤務校で実施しうる新旧世代の教員で考えるコンプライアンス対応の校内研修の企画作り」を設定し協議をした。3つの班からそれぞれの構内研修企画の発表をしたあと、「まとめ」として湯田から特に教育公務員の服装とZ世代への語り掛けについて注意喚起した。

**成果：**事後アンケートでの「講義」での非違行為防止の意識への理解は、「大変深まった」が14人（66.7%）、「深まった」が7人（33.3%）であった（N=21）。グループディスカッションでの理解は、「大変深まった」12人（60%）、「深まった」8人（40%）であった（N=20）。趣旨は十分に理解されたと考える。自由記述では、「現場では、非違行為の定義や現状についての研修が多いが、職員間が思いを共有できる風通しのよい職場環境づくりが必要であることを考えたときに、新旧世代の価値観の違いについてストレート院生の意見を参考にしながら考えることができたのでよかった。現場で是非やってみたいと思える研修の企画ができた」（現職院生）や『「年配が年下を気遣う」ことではなく、『お互いを知る』ことが必要であることを感じた」（ストレート院生）とあり、世代間コミュニケーションの重要性とその内容に沿った校内研修の企画立案が理解された。

#### アイデアや工夫したこと：

- ・宮崎大学生のハラスメント意識についてアンケートを事前に実施し、その調査で得られた成果を反映させた。
- ・宮崎県のコンプライアンス研修と同様に『サービス規律等マニュアル～信頼される教職員を目指して』の枠組みとに依拠した研修内容とした。
- ・グループディスカッションでは、MBAで実践されているケーススタディを実施した。

・研修の講演の個所をビデオ撮影して、遠方者や欠席者が視聴できるように後日オンデマンド配信をした。

## <写真・図など>

### (1) 講義の様子

谷口推進員から、宮崎県の行政研修では、『サービス規律等マニュアル ～信頼される教職員を目指して』に基づいた内容での研修がなされていることと、ハラスメントが起きる原因と対策についての説明がなされた。



### (2) パネルディスカッションの様子

7名のパネラーによるディスカッションを行った。パネラーの構成は、年代を幅広くとるようにした。

### (3) グループディスカッションの様子

構内研修企画を検討した。特大ポストイットを活用して、視認性と整理のしやすさを向上させた。



### (4) グループディスカッションの発表

各班で検討した構内研修企画を発表した。発表はストレート院生が担うことで、発表のスキルと経験を高められるようにした。

